



加西市【兵庫県】 歴史文化基本構想

■ 策定年月：平成30年3月 ■ 人口：44,524人 ■ 面積：150km²
■ 担当課：加西市教育委員会生涯学習課（平成30年3月現在）



歴史文化を活かしたまちづくりに係るさまざまな主体が、目標や方針を共有し、連携・協力して歴史文化遺産を保存・活用し、個性あふれる魅力的なまちづくりを進める。歴史文化遺産の地域での活用の重要主体として、地区ごとに設立された活動団体「ふるさと創造会議」の活動を想定し、構想を策定した。市内の関連文化財群を3つのテーマ、9つのストーリーにまとめ、資料編では地域活用を前提に再整理した。

5 歴史文化を表す つのキーワード

石の文化、播磨国風土記、法道仙人伝承、
五百羅漢石仏、第一次・第二次大戦遺産

課題

- ・ 社会情勢や生活様式等の変化で存続の危機に瀕している歴史文化遺産がある
- ・ 歴史文化遺産が、まちづくりや観光、教育等に十分に活かせていない

保存活用方針

- ・ 歴史文化を身近に思う
「調べる」「学ぶ」「考える」
- ・ 歴史文化の魅力を育む
「整える」「発信する」「使いこなす」

保存活用のための取り組み

ふるさと創造会議による 歴史文化遺産を活かした取り組み

九会地区ふるさと創造会議では、所属するあびき湿原保存会による環境体験学習・自然観察イベントが実施されている。宇仁郷まちづくり協議会では、地区の歴史をまとめ、平成27年に「宇仁郷歴史資料館」を開館し、地区歴史文化遺産の拠点としている



小学生ボランティアガイドの育成

平成17年度より加西市立北条小学校（5年生・6年生）が「北条小歴史ガイド隊」を結成し、五百羅漢、住吉神社、酒見寺をガイド。平成28年には、宇仁小学校で「宇仁っ子ふるさとガイド隊」が結成された。



歴史文化遺産に関する 記念事業の開催

『播磨国風土記』編さんを記念し、平成25年度から27年度まで「加西市播磨国風土記1300年祭」とし、さまざまな関連イベントを開催した。26・27年度の2ヶ年で、開設100年を迎えた青野原俘虜収容所の100周年事業として、学・遊両面のイベントを開催した。

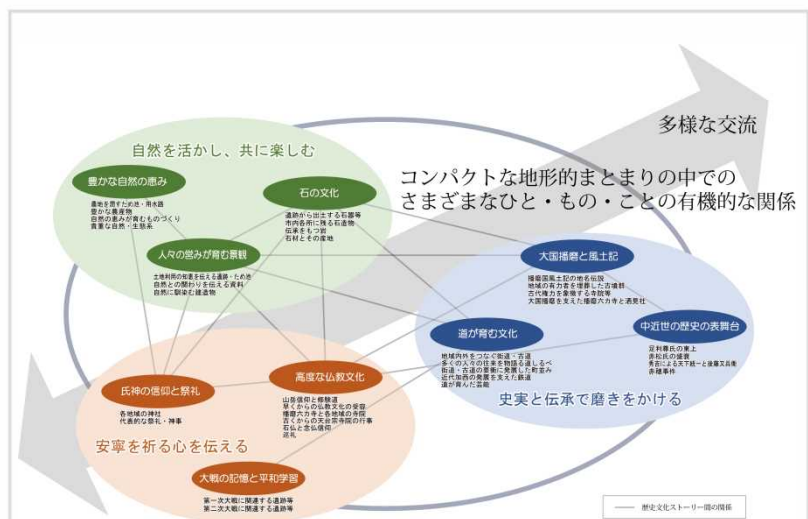


石の文化への取り組み

加西の歴史文化を象徴する石の文化を活用した取り組みを実施する。石彫り体験や地域の石造物調査等を通じ、石に触れる機会を増やすとともに「石の文化」の普及と魅力を発信し、石を活かしたまちづくり、景観づくりを促進する。



関連文化財群



地区の関連文化財群とふるさと創造会議

加西市では地域のニーズ・課題にきめ細かく対応し、その実情や特性を踏まえた魅力ある地域をつくるため、地域住民が中心となり、概ね小学校区を単位とした「ふるさと創造会議」が設立されている。地区の関連文化財群への取り組みは、ふるさと創造会議が主体となって動き始めている。

加西市の関連文化財群と地区の関連文化財群の両軸で取り組む。

加西市の関連文化財群は、3つのテーマをもとに、9つの歴史ストーリーを設定。

- I. 自然を活かし、共に楽しむ (①～③)
- II. 史実と伝承で磨きをかける (③～⑤)
- III. 安寧を祈る心を伝える (⑦～⑨)

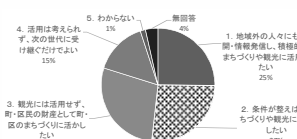
ストーリー

- ① 石の文化
- ② 人々の営みが育む景観
- ③ 豊かな自然の恵み
- ④ 大國播磨と風土記
- ⑤ 道が育む文化
- ⑥ 中近世の歴史の表舞台
- ⑦ 氏神信仰と祭礼
- ⑧ 高度な仏教文化
- ⑨ 15大戦の記憶と平和学習

策定後の成果 (見込まれる効果)

① 観光資源と地域の宝

構想策定時の住民アンケートの結果、約半数が「地域の歴史文化遺産をまちづくりや観光への活用」と、「地域住人たちだけの財産」とする意見が拮抗している。意見の大半が、この2つの方向性を示していることから、地域特性に合わせた、活用法が有効と考える。



② 歴史文化遺産の防災体制の強化

構想内で指定文化財だけでなく歴史文化遺産を保護対象としたことで、市防災計画への歴史文化遺産に関する記載が可能となった。「歩くまちづくり推進計画」に基づき、日々の健康増進を兼ね、地域の歴史文化遺産を散歩することで、防犯体制の強化（「歩く歴史文化遺産パトロール」）を試みる。



③ 推進協議会の設立

構想の推進にあたっては、各主体が取り組みを効果的に推進するために、本構想の策定委員会を踏襲するかたちで、「(仮称)加西歴史文化まちづくり推進協議会」を組織し、主体間の情報を共有し、連携、調整の場とするともに、構想の進捗管理を行う。

